

# I 結果のポイント

## 1 全道の状況

### (1) 平均正答率の推移【P 2～3】

- 全国との差が、昨年度と比較して、8教科中、小学校算数A、中学校数学Aの2教科で同じ。小学校国語A・B、算数B、中学校国語A・B、数学Bの6教科で差が縮まり、そのうち中学校国語Aは全国と同じ。
- 小学校は、すべての教科で全国との差が3.0ポイント以内。
- 中学校は、すべての教科で全国との差が1.4ポイント以内。

### (2) 各領域等の平均正答率【P 4～8】

- 小学校は、すべての領域で全国を下回っている。
- 中学校は、国語A「話すこと・聞くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、数学B「関数」で全国を上回っている。

### (3) 質問紙調査【P 9～16】

- 児童生徒質問紙調査では、小・中学校ともに、「家で学校の授業の予習や復習をしている」児童生徒の割合は全国を上回っているが、「1時間以上勉強する」児童生徒の割合は全国を下回っている。
- 学校質問紙調査では、小・中学校ともに、「家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図った」学校や、「保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行った」学校の割合は全国を上回っているが、「国語、算数・数学の家庭学習の課題（宿題）をよく与えた」学校の割合は全国を下回っている。

### (4) 正答数の状況（下位層の割合）【P 17～18】

- 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる本道児童生徒の割合は、すべての教科で、全国より高い（小学校:1.5～4.2ポイント、中学校:0.1～2.4ポイント）が、昨年度と比較してすべての教科で改善。

### (5) 全道の学校の平均正答率のばらつき【P 19～20】

- 全国を上回った学校が、各教科で、小学校は34.3%～47.2%であり、昨年度と比較してすべての教科で改善。中学校は40.0%～50.6%であり、昨年度と比較して国語A、数学A・Bで改善。

## 2 管内の状況

### (1) 管内の平均正答率のばらつき【P 23～24】

- 全国を上回った管内は、小学校では、国語Aで空知、渡島、檜山、留萌、釧路、中学校では、国語Aで石狩、上川、留萌、釧路、国語Bで石狩、上川、数学Aで石狩、数学Bで石狩、上川。

## 3 市町村の状況

### (1) 市町村の規模別の平均正答率【P 81～83】

- 「大都市・中核市」は小学校のすべての教科で全国を下回っており、昨年度と比較して算数Bで差が縮まっている。中学校のすべての教科で全国を上回っており、昨年度と比較して数学Bはさらに改善している。
- 「その他の市」は小・中学校のすべての教科で全国を下回っているが、昨年度と比較して小学校のすべての教科で、中学校の国語A、数学A・Bで差が縮まっている。
- 「町村」は小・中学校のすべての教科で全国を下回っているが、昨年度と比較して小学校のすべての教科で、中学校の国語A、数学Bで差が縮まっている。

### (2) 市町村の平均正答率の度数分布【P 84】

- 全国を上回った市町村が各教科で31～80あり、昨年度（23～67）と比較してすべての教科で増加。